

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

6年6月17日

船橋市長あて



提出者

住所 千葉市稲毛区山王町94-46

氏名 株式会社 大成

代表取締役 古野 凌汰

電話番号 043-304-9200

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

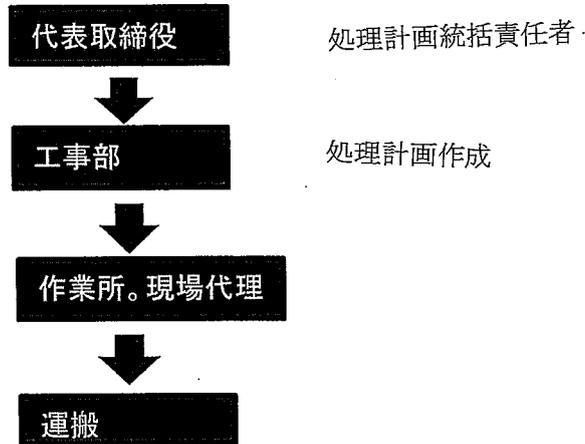
事業場の名称	株式会社 大成
事業場の所在地	千葉市稲毛区山王町94-47
計画期間	令和 ⁶ 年4月1日から令和 ⁷ 年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	大分類：建設業、中分類：識別工事業（設備工事業を除く）。
②事業の規模	前年度の請負工事高 5.64億円
③従業員数	11名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<pre> graph LR A[現場] --> B[廃プラスチック 木くず 繊維くず ガラコン陶器 がれき類 コンクリートがら] B --> C[委託処理 (中間処理)] C --> D[委託処理 (再生処理)] C --> E[委託処理 (最終処分)] </pre>

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

図)



①現状	【前年度（ 5 年度）実績】 別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	木くず
	排 出 量	4.145 t	306.9 t
	(これまでに実施した取組) ・廃棄物を再利用できるよう、種類ごとに分別作業を行っている。		
②計画	別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	木くず
	排 出 量	4 t	300 t
	(今後実施する予定の取組) 分別により混合廃棄物の抑制を行う。		

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 再生可能品目については各品目毎に分類を行い、混合廃棄物としての搬の の軽減に努めている。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 細分化した分別処理を継続実地する。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) これまでに自社で行った事はない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) これからも自社で行う予定なし。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
(これまでに実施した取組) これまでに自社で行った事はない。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
(今後実施する予定の取組) これからも自社で行う予定なし。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	（これまでに実施した取組） これまでに自社で行った事はない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	（今後実施する予定の取組） これからも自社で行う予定なし。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ 5 年度）実績】 別紙9 七折り		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	木くず
	全処理委託量	4.145 t	306.9 t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	4.145 t	306.9 t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	（これまでに実施した取組） 産業廃棄物の処理は、委託契約を終結した処分業者のみに委託する事を徹底している。現地確認を行い、適正な運搬・処分を確認している。		

②計画	【目標】	別紙のとおり	
	産業廃棄物の種類	4 t	300 t
	全処理委託量	4 t	300 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	4 t	300 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
<p>廃棄物管理票（マニフェスト）により、正確な数量把握を行い、最終処分までの工程の確認を行う。</p>			
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項					
①現状	【前年度（ 5 年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	ガラコン陶器	がれき類	コンクリートがら	混合廃棄物
	排出量	45.26t	154.056t	659t	26.73t
	(これまでに実施した取組) 産業廃棄物の種類ごとに委託契約を終結し、処分業者で適切に処理している。				
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	ガラコン陶器	がれき類	コンクリートがら	混合廃棄物
	排出量	45t	150t	650t	25t
	(今後実施する予定の取組) 分別を徹底する。工事計画時に適正量を計画し、効率的な工事を行うことにより、廃棄物の排出量を抑制することを促進させる。				

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項					
①現状	【前年度（ 5 年度）実績】				
	産業廃棄物の種類				
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	—	—	—	—
	(これまでに実施した取組) これまでに自社で行った事はない。				
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類				
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	—	—	—	—
	(今後実施する予定の取組) これからも自社で行う予定なし。				

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項					
①現状	【前年度（ 5 年度）実績】				
	産業廃棄物の種類				
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	—	—	—	—
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	—	—	—	—
	(これまでに実施した取組) これまでに自社で行った事はない。				
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類				
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	—	—	—	—
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	—	—	—	—
	(今後実施する予定の取組) これからも自社で行う予定なし。				

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項					
①現状	【前年度（ 年度）実績】				
	産業廃棄物の種類				
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	—	—	—	—
	(これまでに実施した取組) これまでに自社で行った事はない。				
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類				
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	—	—	—	—
	(今後実施する予定の取組) これからも自社で行う予定なし。				

産業廃棄物の処理の委託に関する事項					
①現状	【前年度（ 5 年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	ガラコン陶器	がれき類	コンクリートがら	混合廃棄物
	全処理委託量	45.26 t	154.056t	659t	26.73t
	優良認定処理業者への処理委託量				
	再生利用業者への処理委託量	45.26 t	154.056t	659t	26.73t
	認定熱回収業者への処理委託量				
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量				
	(これまでに実施した取組) 廃棄物管理票(マニフェスト)により、最終処分までの工程の確認を行った。産業廃棄物の処理処分を委託する場合には、事前に書面により委託基本契約を終結する。				
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	ガラコン陶器	がれき類	コンクリートがら	混合廃棄物
	全処理委託量	45 t	150 t	650 t	25 t
	優良認定処理業者への処理委託量				
	再生利用業者への処理委託量	45 t	150 t	650 t	25 t
	認定熱回収業者への処理委託量				
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量				
	(今後実施する予定の取組) 引き続き、廃棄物管理票による確認と、産業廃棄物の委託処分は、委託基本契約を終結する。				